八歳の時の憤激

長谷川時雨

青空文庫

隨筆家としての岡本綺堂を語れといはれて、「明治劇談・ランプの下にて」の中の、ある一章を思ひ出した。

明治十二年、岡本先生八歳、父君にともなはれて新富座の樂屋に九代目市川團十郎をたづねたとき、坊ちやんも早く大きくなつて、好い芝居を書いてくださいと、笑ひながら言はれたのを、ただ、それだけならば、單に當座の冗談として聞き流すべきだつたが、更に、團十郎が父君にむかつて、

「わたくしはそれを皆さんに勸めてゐるのです。片つ端から作者部屋に抛り込んで置くうちには、一人ぐらゐ物になるでせう。」

といつた、その一言に對して非常に憤激したことを明かに記憶してゐると、「市川團十郎」といふ章に記してある。その次の「似顔繪と双六」の章にも、前に云つたやうなわけで、芝居といふものに對する第一印象は餘り好くなかつたとも、それ以來、家の人たちが芝居見物にゆく場合には、いつも留守番をしてゐたとも書かれてある。

癪にさはつて、出されたカステイラを毟つて食べ、お茶をがぶ〳〵飲んでゐた、岡本敬二坊ちやんを、眼にうかべて、わたしはそこのところを幾度も讀んだので忘れないでゐる。と、いふのも、わたくし自身も、幼いころは臆病で芝居に連れてゆかれると泣いて困らせたり、芝居茶屋の二階で人形をかざつてひとりで遊んでゐたりしたくせに、もの心附くと芝居が書いて見

たくなつたのと思ひくらべて、そのをりはそんなに怒つた綺堂先生が、脚本をお書きなすつたことに、聯想した興味をもつたから忘れないのでもあつた。

しかし、この、八歳の幼時の氣慨で、岡本さんの一生はまことに鮮かに解る氣がする。座附狂言作者以外の脚本家の立つ場所を、あの、暗雲低迷、もぢやもぢやした芝居道に、クツキリと、道をつけてくださつたといふことだけでも、後から行くものは全く恩としなければならない。それは、一つには、時代がさうしたのだといへば、もとよりそれもあるといへるが、また、さうばかりもいひきれないのがあの世界だ。岡本さんや眞山さんといつた硬骨の人がなければ、作家へ對する態度は、もつと、傍若無人で惡い狀態でつゞいたかもしれない。

隨筆といへば、あれは隨筆ではないが、「支那怪奇小説集」の譯をわたくしは愛讀してゐる。綺堂ものの中には「修禪寺物語」をはじめ、あの方のフランス文學に造詣の深いことを證據だててゐるが、支那の文學にあんなにまで徹してゐられることを、一般の人はよく知らないであらう。そして、それが、どんなに岡本さんの文學の血と膏になつてゐるかを見ると、勉強といふことを實によく教へられる。たしか「兩國の秋」といつたかと思ふが、尾上梅幸が帝國劇場で上演した蛇つかひの女の執念。それから、あれもたしかに綺堂さんの作と思つたが、菊五郎、梅幸で演じた「お化け師匠」踊りの師匠の妄念——それから小説では半七捕物帳の中の「むらさき鯉」その他。それらは「支那怪奇小説集」の譯者なればこそだと、その完全に咀嚼しつくされた妙味に、なんともいへないうま味を感じる。いまは早や、故き人の、潔癖とかんしやく

の話をよくきいたが、それは、前に引いた、八歳の童兒の憤慨を知れば當然のことと思へるし、それが貴かつたのだが、わたくしはまた、小時間づつしかお目にかからなかつたせゐか、何時も、ものやさしい機嫌のいい、話好きの一面にしか觸れてゐない。わたしに親しく話かけてくださつたのは、もう三十年近くも前にならうか「あなたとわたくしと兄妹になつて阪地(かみがた)へ行きますよ」と、脚本が一番目二番目に組みあはせられるといふ事をきかせてくださつた時であつたと思ふ。ほんとに長い日がいつか遥(た)つてしまつたものだ。

青空文庫情報

底本：「舞臺　岡本綺堂追悼號」舞臺社
　　1939（昭和14）年5月1日発行
初出：「舞臺　岡本綺堂追悼號」舞臺社
　　1939（昭和14）年5月1日発行
入力：門田裕志
校正：野口英司
2010年2月18日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

八歳の時の憤激

長谷川時雨

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/